

心理、PET検査の研究に参加された皆様へ

(臨床研究に関する情報)

病気の原因の解明、病気の予防・診断・治療の改善、生活の質の向上などのために、人を対象として行われる研究のことを臨床研究といいます。より良い医療の発展のために、多くの患者さんに臨床研究にご協力頂くことが必要です。

この研究は、本研究とは別途に実施された別の臨床研究のデータをまとめて解析することによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされており、この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先：窓口」へご照会ください。

[研究課題名] 線条体ドーパミンD₂受容体密度と性格特性の関連に関する研究(実施期間:承認日～西暦2019年3月31日)

[データ解析の対象となる研究課題名]

- (1)正常者における喫煙状態におけるシナプス間のドーパミン放出に関する研究
- (2)抗精神病薬によるドーパミンD₂レセプター占有率の脳内局所差に関する研究
- (3)JNS007ER の統合失調症患者を対象とした安全性・有効性の探索的試験
- (4) [¹¹C]racloprideによる正常者における喫煙状態におけるシナプス間のドーパミン放出に関する研究
- (5)ドーパミンD₂受容体アゴニストリガンド[¹¹C]MNPAを用いたドーパミンD₂受容体部分アゴニスト抗精神病薬(アリピプラゾール)の脳内ドーパミンD₂受容体占有率測定に関する研究
- (6)抗精神病薬による脳内ドーパミンD₂受容体占有率の経時変化に関する研究

[研究機関] 量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所

[研究責任者] 高畑 圭輔

[研究の目的] 神経伝達物質の一つであるドーパミンは、認知・情意・運動機能から動機付けにいたるまで重要な役割を果たすと考えられています。本研究では、脳の線条体を機能的に分類した各領域(辺縁線条体、連合線条体、感覚運動線条体)のドーパミンD₂受容体密度と個人の性格特性(特にポジティブな自己評価に関する特性)との関連を明らかにすることを目的としています。

[研究の方法]

- 対象となる被験者 : 放射線医学総合研究所にて行われた上記の(1)から(6)の研究に参加した方で、心理質問紙、PET検査の両方を受けた方
- 利用する研究情報・利用方法:年齢、性別、検査所見(MRI画像、PET画像、心理検査結果)、喫煙歴 **別途実施済みの研究データを使用し、情報取扱いの安全管理された電子システムにより集計しますので、新たな質問や検査の必要はありません。**

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、その他の個人を直接識別できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報がありません。(国立研究開発法人量子科学技術研究機構放射線医学総合研究所個人情報保護規程に従い、資料の保管管理及び利用等に関する措置を行います。)

この研究にご自分の研究記録を使ってほしくない(又は代理人の方)は、2017年8月31日までにお申し出ください。ただし、2017年9月1日以降にデータが解析でまとめられてしまった後には個人識別できない情報は取り除くことができない場合があります。

この調査へのご自分の診療記録の使用をお断りになっても、不利益を受けることは全くありません。

[問い合わせ先：窓口]

千葉県千葉市稲毛区穴川4-9-1

放射線医学総合研究所臨床研究支援室

電話:043-206-4713 平日: 9:00 ~ 17:00